

夏秋野菜等の需要に応じた生産の推進について (令和6年度夏秋野菜等の需給ガイドライン)

令和5年12月

農林水産省農産局園芸作物課

野菜価格安定制度における計画生産・計画出荷の仕組み

- 需要に即した計画的な生産・出荷を推進するため、国は指定野菜について概ね5年ごとに需要及び供給の見通しを策定するとともに、年2回(冬春・夏秋)需給ガイドラインを策定。この需給ガイドラインを目安として、出荷団体等は、供給計画を作成し、計画に即した野菜の出荷に努める仕組み。
- 供給計画に即した出荷がなされるよう、指定野菜価格安定対策事業においては、供給計画と出荷実績との乖離度に応じて生産者補給交付金を減額する措置のほか、前年度の価格低落時における需給調整の取組実績等に応じて補填率に差を設ける措置を導入。

需要及び供給の見通し(国)

(概ね5年ごとに策定)

指定野菜の種別ごとに、概ね5年後の需要量、供給量、国内産供給量の見通しを策定

需給ガイドライン(国)

(毎年、6月:冬春野菜、12月:夏秋野菜に策定)

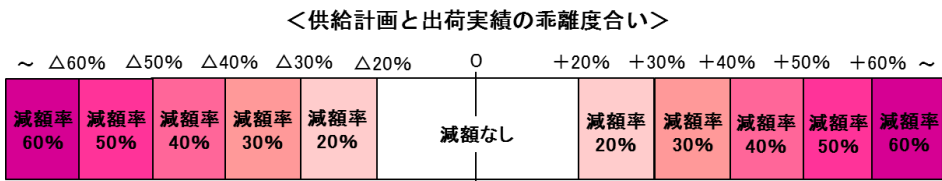
直近の需給動向等を踏まえ、種別ごとに次期作の需要量、供給量、国内産供給量の見通し、作付面積の指標を策定

供給計画(出荷団体等)

需給ガイドラインを目安とし、種別ごとに年2回策定(播種・定植前の当初計画、出荷前の確定計画)

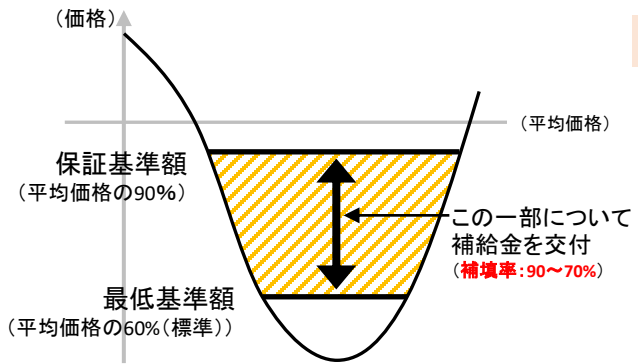
指定野菜価格安定対策事業における措置

- ① 供給計画の作成を加入要件とする(契約野菜収入確保モデル事業を除く)
- ② 供給計画と出荷実績との乖離度に応じて交付金を減額



※ ±20%から±60%まで±10%間隔で乖離度合いを区分し、減額率は0～60%。

- ③ 過去3年の供給計画と出荷実績の乖離度や、緊急需給調整事業の取組実績等に応じて、生産者補給交付金の補填率を設定



補填率90%(産地区分Ⅰ)となる場合

以下の①・②の両方を満たす出荷団体

- ① 次のa又はbに該当すること
 - a. 産地強化計画(加工・業務用推進タイプ)を策定
 - b. 産地強化計画を策定し、直近3か年の計画的出荷割合が基準を満たす※
- ② 前年度において、対象品目の価格が緊急需給調整事業の発動価格以下となった際、対象品目の出荷があり、かつ、緊急需給調整事業を実施したこと

※ 直近3年の各年の計画的出荷割合 < 120/100、かつ、計画的出荷割合の直近3年平均 < 110/100

令和6年度夏秋野菜等の需給ガイドライン(概要)

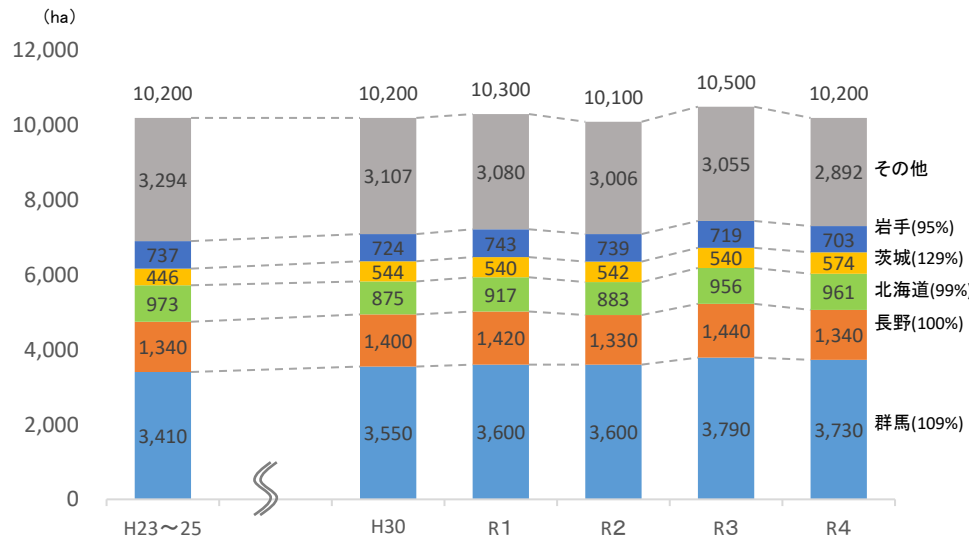
- 需給動向や人口、単収等のすう勢を基に、有識者の意見も踏まえつつ、指定野菜に係る「需給ガイドライン」を策定。
- 令和6年度夏秋野菜等の需給ガイドラインでは、近年、供給過剰気味であり、複数年連続で緊急需給調整事業も発動している夏秋キャベツ、夏はくさい、夏秋レタスなどについて、直近作付面積実績よりも低い作付面積の指標を提示

種別等	需要量 (t)	供給量 (t)	国内産供給量 (t)	作付面積 (ha)	直近年作付実績比		
					直近年作付実績比	前年度ガイドライン比	
夏秋キャベツ	342,700	485,700	477,200	9,700	95.1%	97.0%	
夏秋きゅうり	238,400	261,600	252,200	7,190	100.0%	97.4%	
秋冬さといも	136,800	173,100	133,700	10,100	100.0%	91.0%	
夏だいこん	187,600	221,800	217,900	5,290	100.0%	94.0%	
夏秋トマト	248,700	298,100	295,100	6,950	100.0%	96.1%	
	うち大玉	200,000	239,800	237,300	5,420	100.0%	95.4%
	うちミニ	48,700	58,300	57,800	1,530	100.0%	98.7%
夏秋なす	151,700	175,600	174,800	6,920	100.0%	95.1%	
秋にんじん	246,100	269,900	197,300	5,120	101.4%	97.5%	
秋冬ねぎ	203,700	297,300	273,600	13,600	100.0%	96.5%	
夏はくさい	134,500	168,400	167,600	2,320	96.3%	100.0%	
夏秋ピーマン	65,100	80,700	68,000	2,220	102.8%	99.6%	
夏秋レタス	201,300	247,500	245,500	8,050	96.3%	95.3%	

夏秋キャベツの生産・価格等動向①

- 群馬県産が全体出荷量の5割強を占める。10年前と比較し、全体作付面積は横ばいであるが、単収の増加に伴い、全体出荷量は約1割増加。
- 輸入は国内産供給量と比較するとごく少量で、国産の不作による不足分を補うため主に中国から輸入されている。

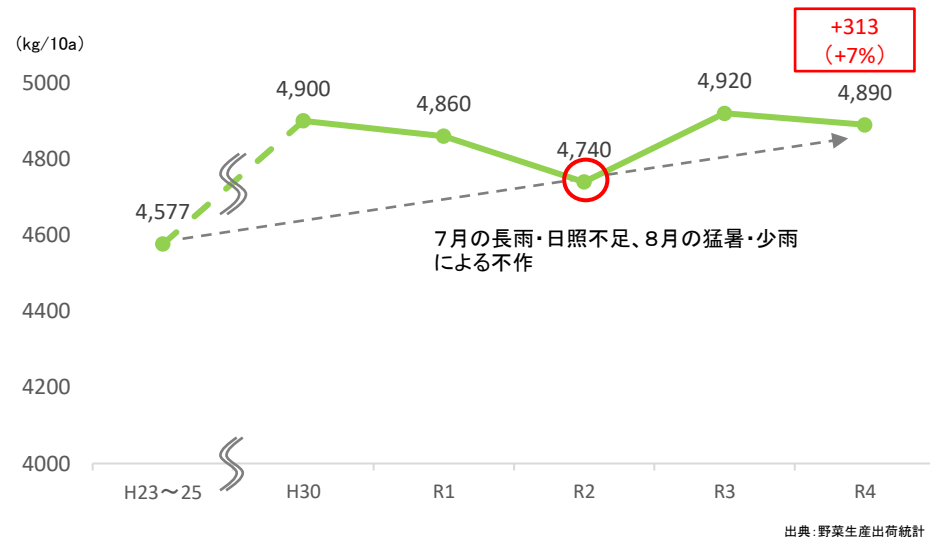
1. 作付面積の推移



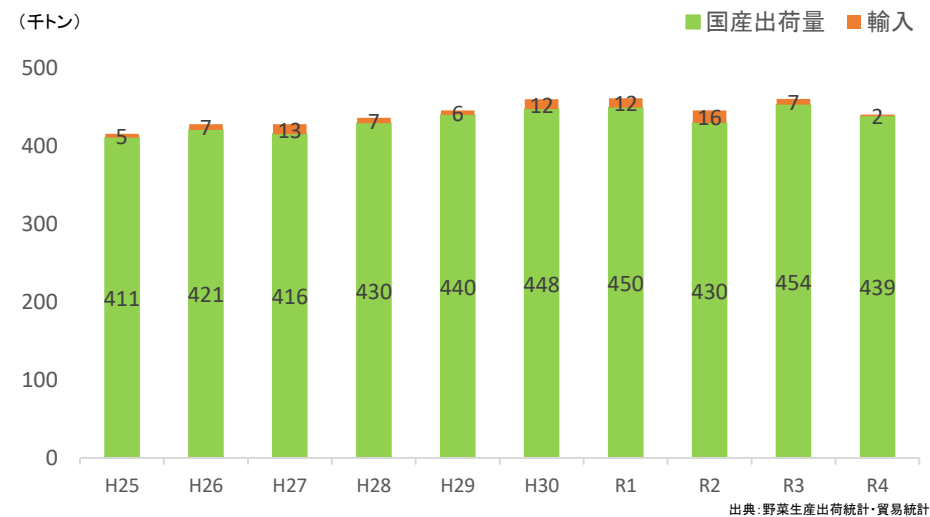
2. 出荷量の推移



3. 単収の推移



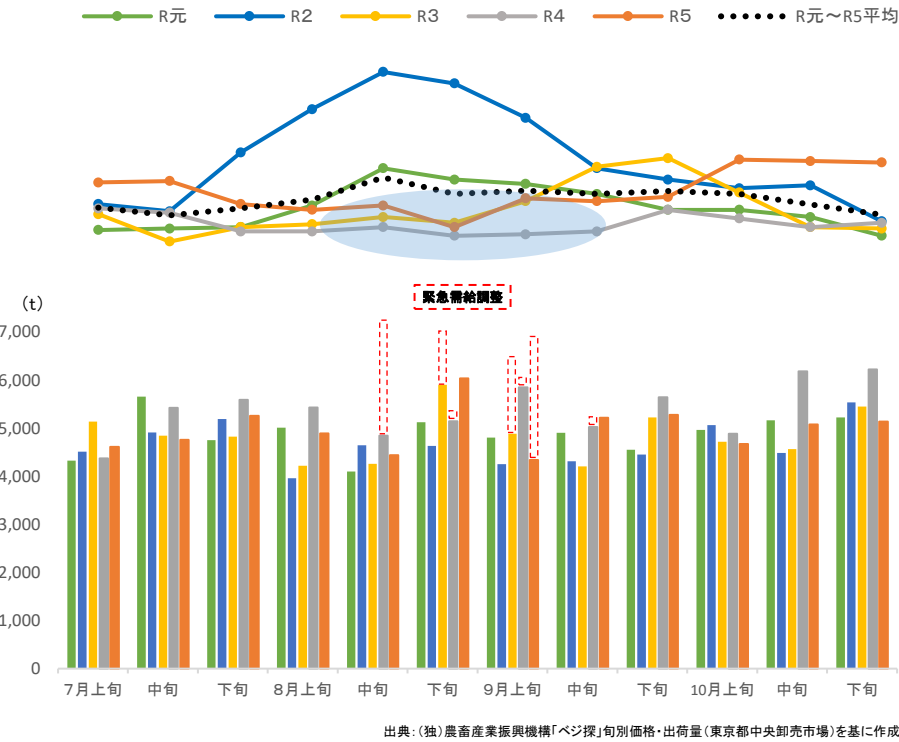
4. 出荷量と輸入量



夏秋キャベツの生産・価格等動向②

- 令和2年は7月の長雨・日照不足、8月の猛暑・少雨による出荷量減少で高値となったが、令和3年～5年は3年連続で7月下旬から長期に渡って価格が低迷し、8月・9月に緊急需給調整事業を発動している。
- 10年前と比較して出荷量は増加しており、夏場の価格低落が常態化。

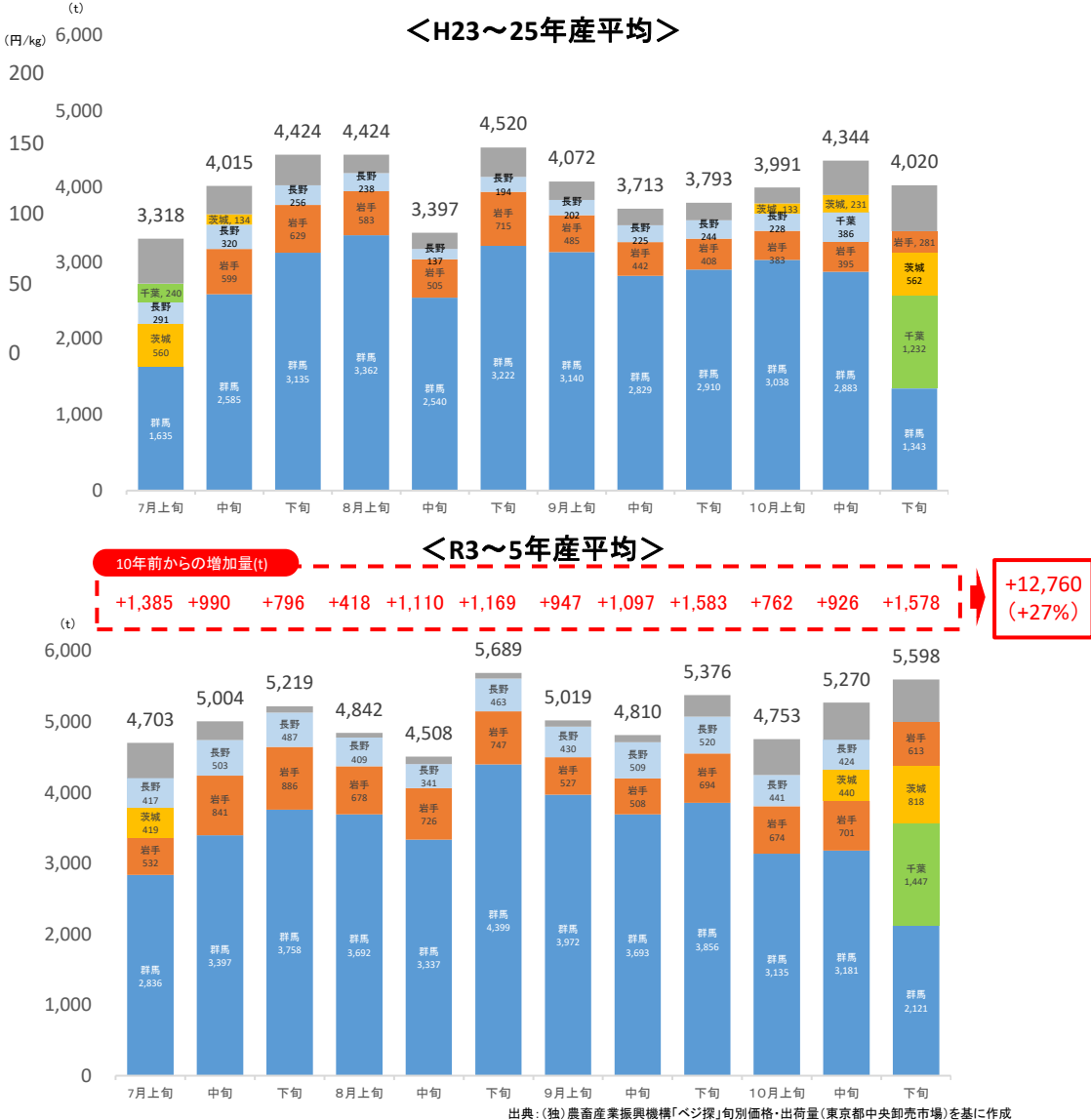
5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



6. 緊急需給調整事業実施状況

	8月中旬	8月下旬	9月上旬	9月中旬	合計
R3年		5,266	8,979		14,245
R4年	14,226	311	208	58	14,803
R5年			13,255	1	13,256

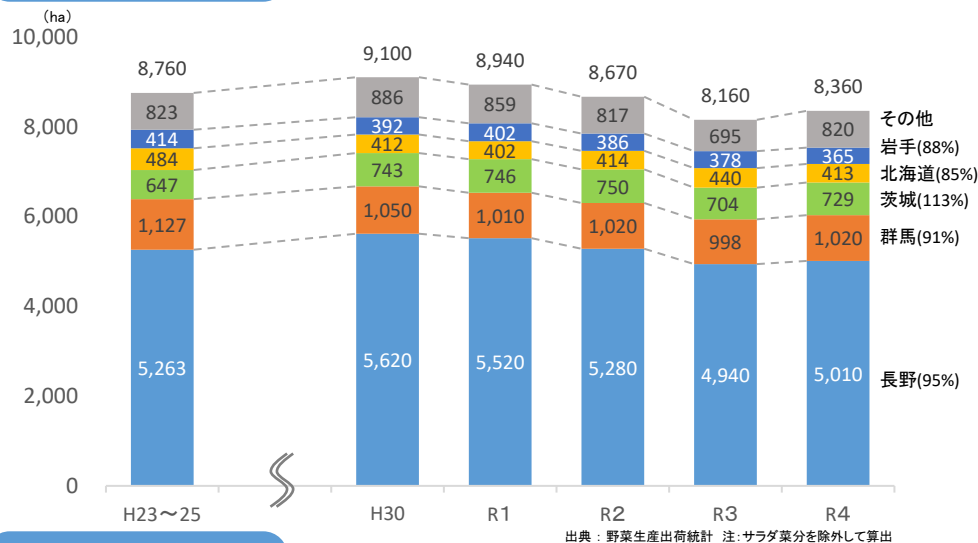
7. 東京中央卸売市場における旬別出荷量の変遷



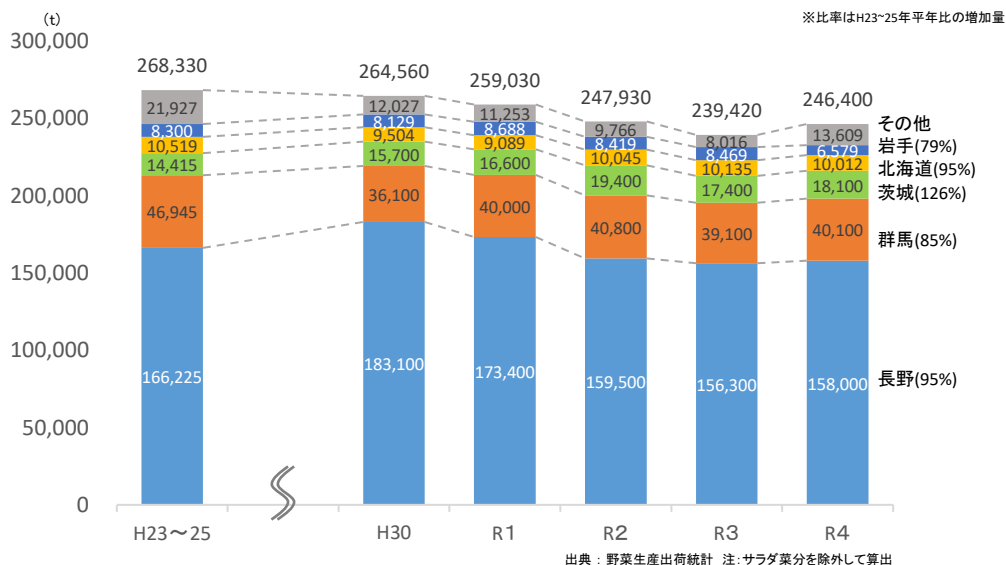
夏秋レタスの生産・価格等動向①

- 長野県産、群馬県産で全体出荷量の約8割を占める。10年前と比較し、全体作付面積、全体出荷量ともにやや減少。近年、長野県産の作付面積・出荷量が大きく減少する一方で、茨城県産の作付面積・出荷量は大きく増加。
- 輸入量は国内産供給量と比較すると極少量で、国産の不作による不足分を補うため主に中国から結球レタス、アメリカから非結球レタス(ロメインレタス)が輸入されている。

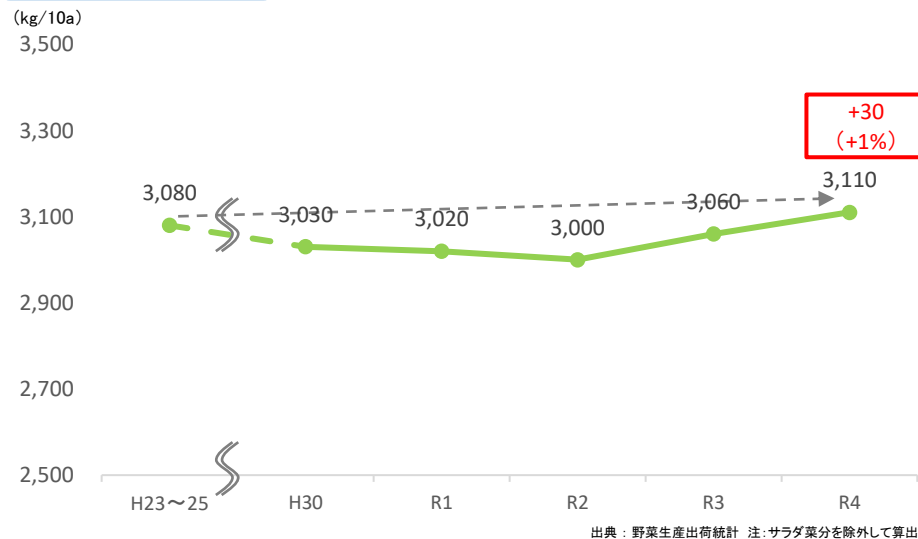
1. 作付面積の推移



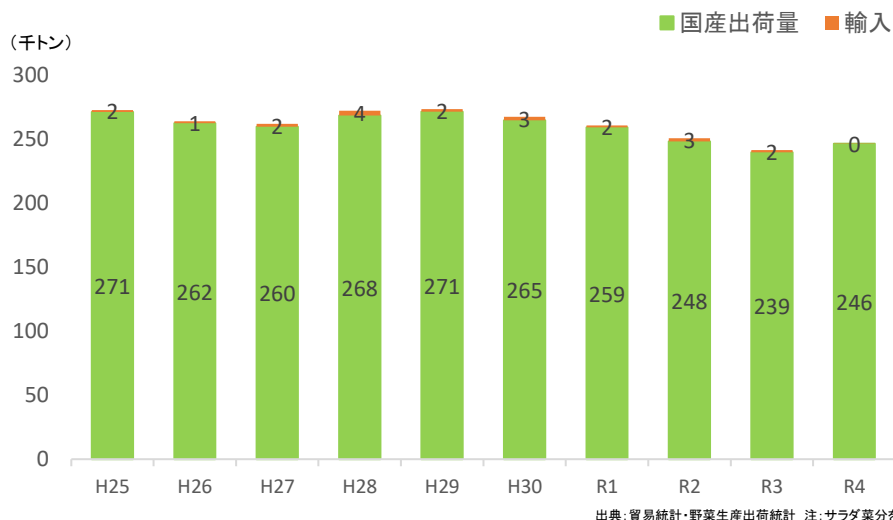
2. 出荷量の推移



3. 単収の推移



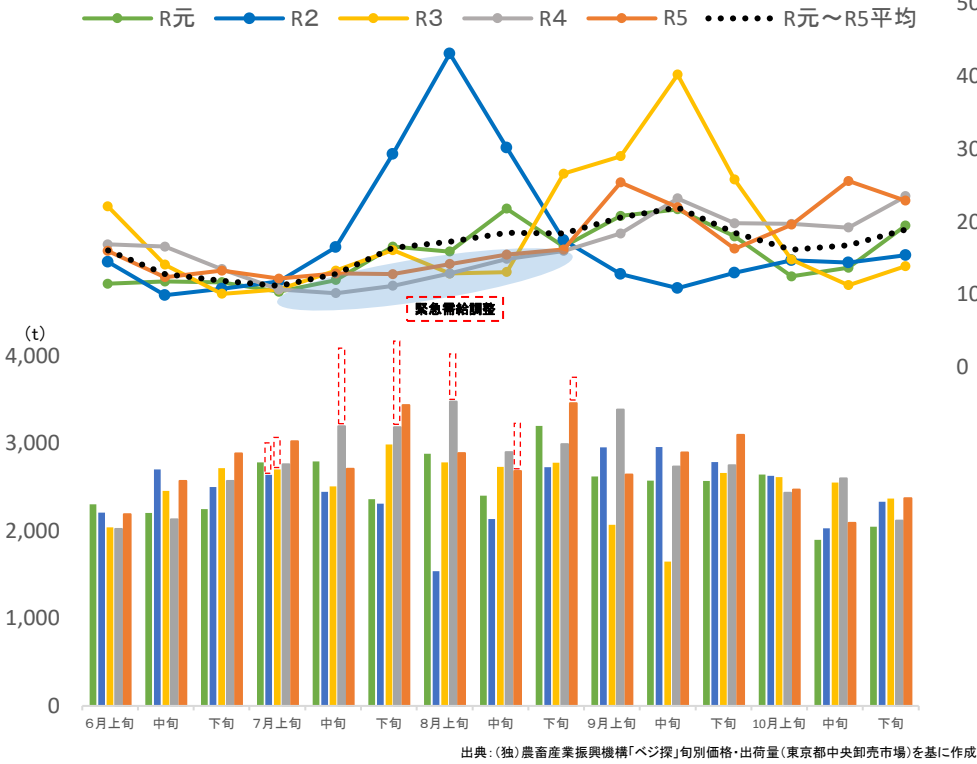
4. 出荷量と輸入量



夏秋レタスの生産・価格等動向②

- 令和2年は7月の長雨・日照不足、令和3年9月は曇雨天等により出荷量が減少し、一時的に高値となったが、全般的には気温上昇とともに7月中下旬から出荷量が増加し、価格が低落する傾向にあり、令和2年～5年は4年連続で緊急需給調整事業を発動。
- 10年前と比較し、7～8月の出荷量が大きく増加。

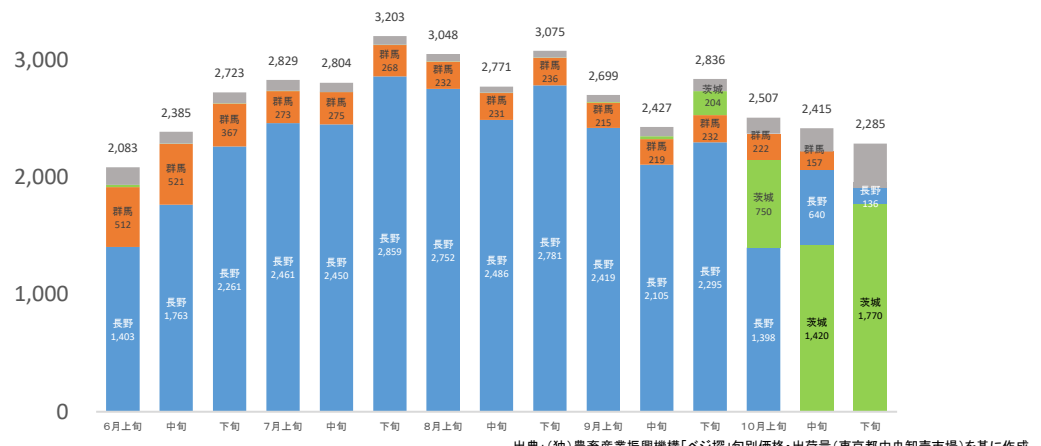
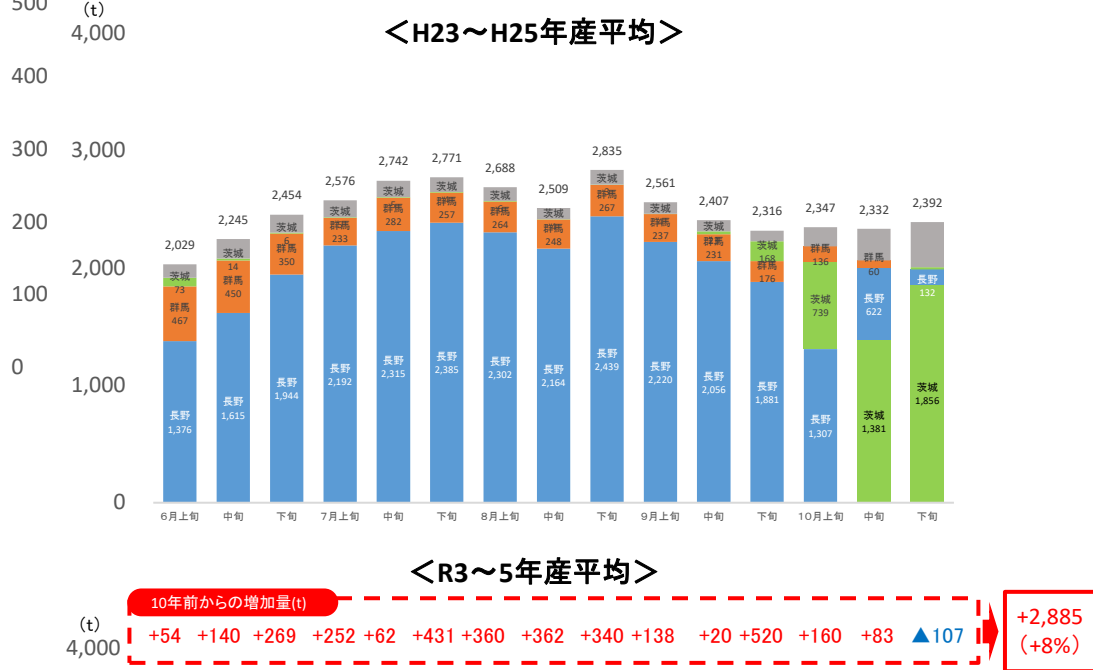
5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



6. 緊急需給調整事業実施状況

	7月上旬	中旬	下旬	8月上旬	中旬	下旬	合計
R2年	226						226
R3年	226						226
R4年		1,814	2,154	769			4,737
R5年					600	308	908

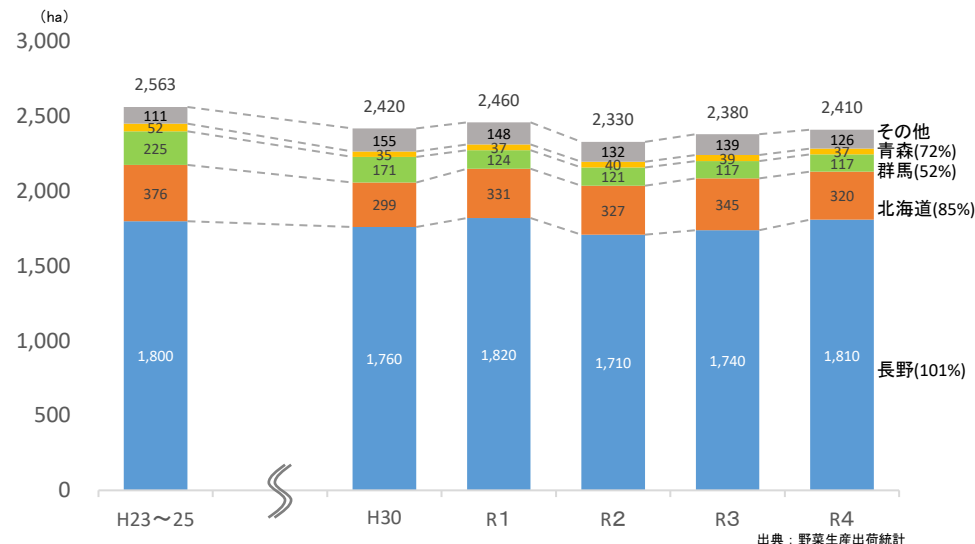
7. 東京中央卸売市場における旬別出荷量の変遷



夏はくさいの生産・価格等動向①

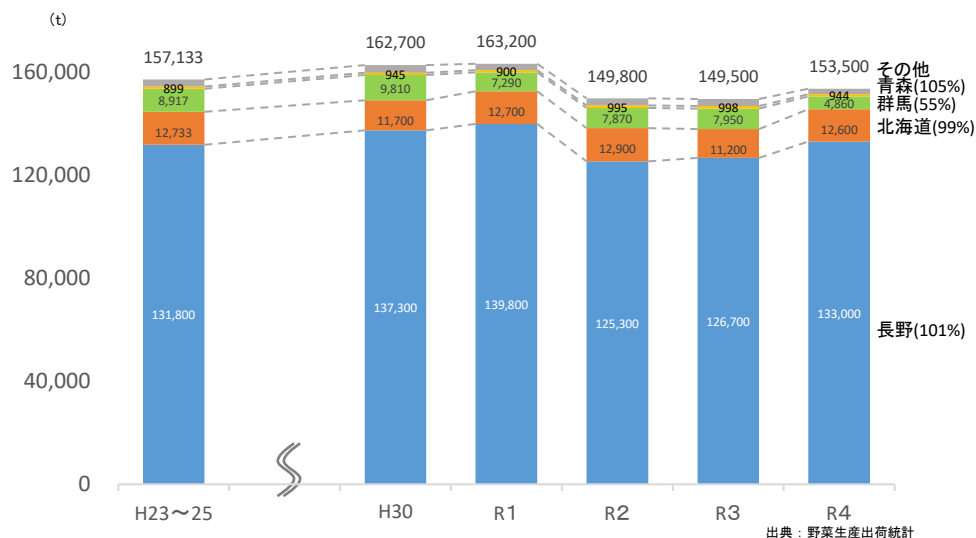
- 長野県産が全体出荷量の約8割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は減少しているものの、単収の増加に伴い、全体出荷量はほぼ横ばい。
- 輸入は極少量で、国内供給のほぼ100%が国産。

1. 作付面積の推移

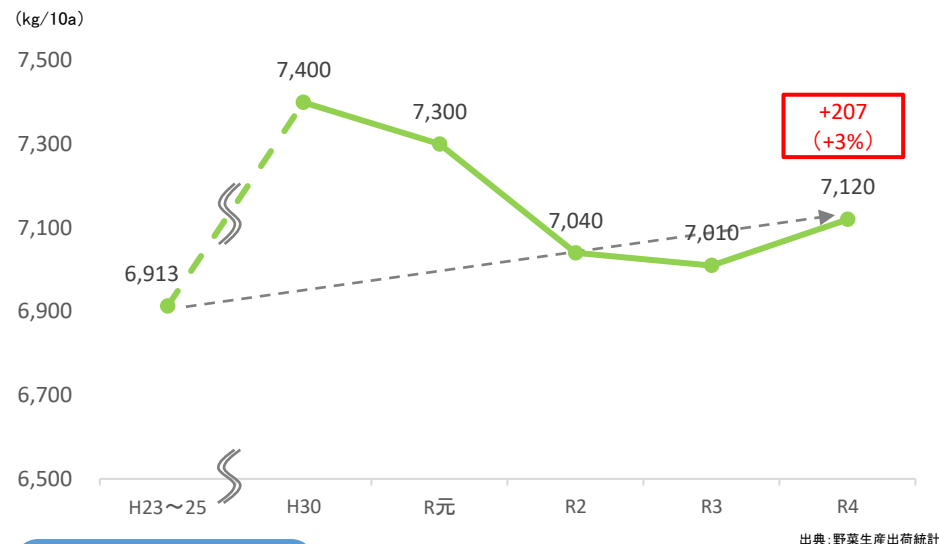


※比率はH23~25年平年比の増加量

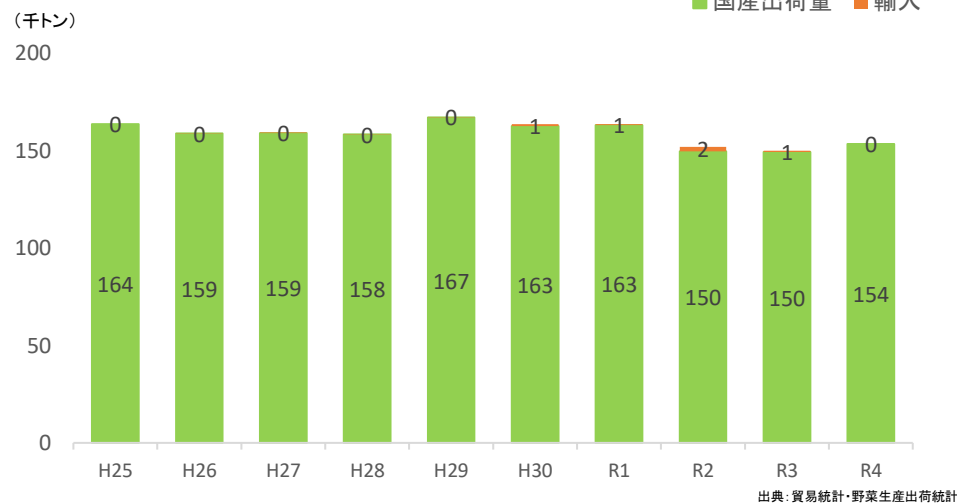
2. 出荷量の推移



3. 単収の推移



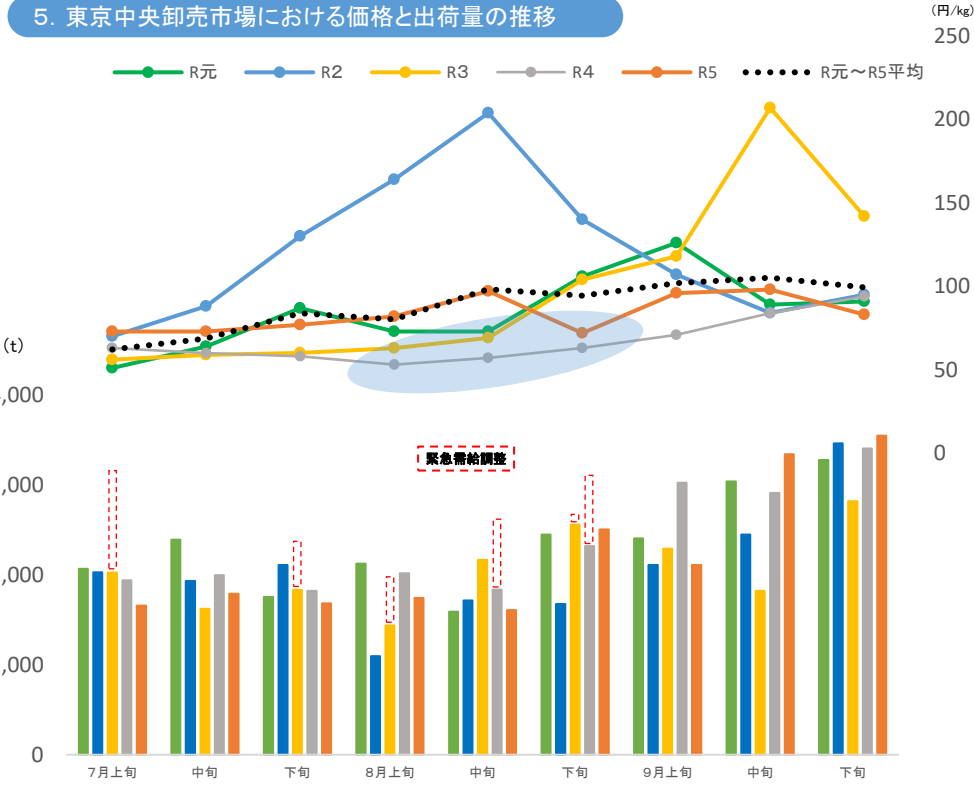
4. 出荷量と輸入量



夏はくさいの生産・価格等動向②

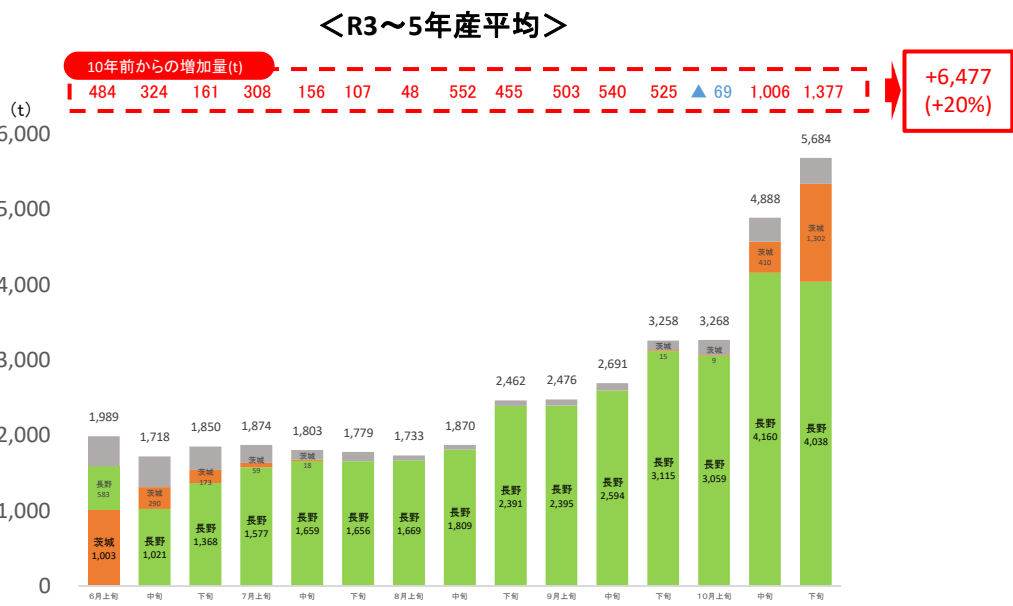
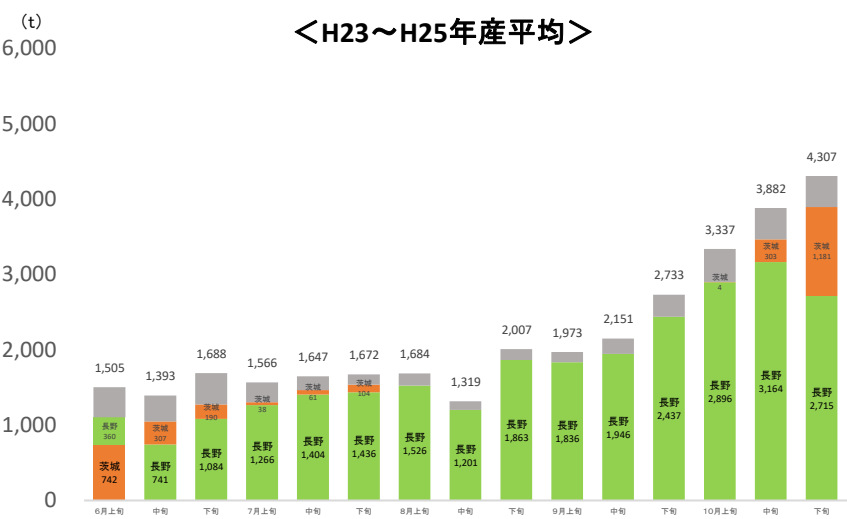
- 令和2年は7月の長雨・日照不足、8月の猛暑・少雨による出荷減少に加え、新型コロナ禍での加工・業務用(キムチ)需要の高まり等により高値となったが、令和3年・4年は2年連続7月下旬から長期に渡って価格が低迷し、8月中下旬に緊急需給調整事業を発動している。
- 10年前と比較し、特に8月以降の出荷量が大きく増加。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典: (独)農畜産業振興機構「ベジ探」旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

7. 東京中央卸売市場における旬別出荷量の変遷



出典: (独)農畜産業振興機構「ベジ探」旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

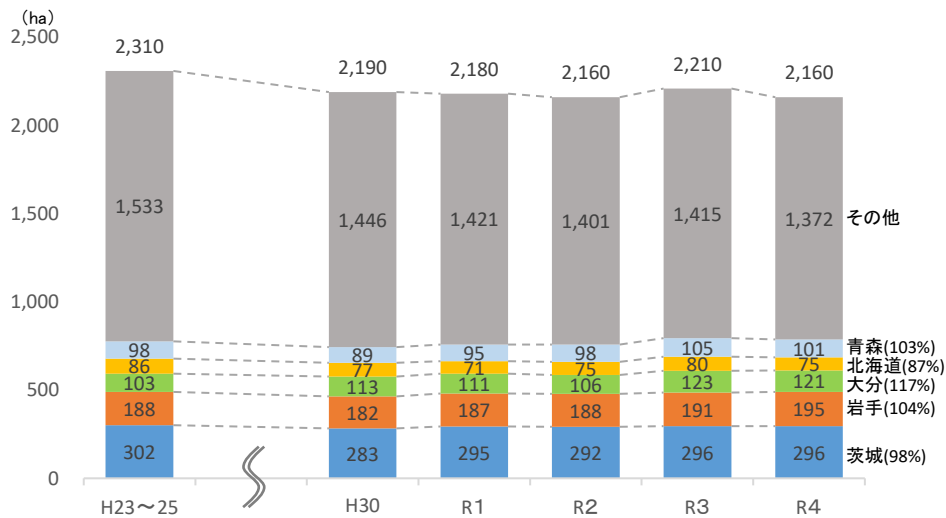
6. 緊急需給調整事業実施状況

	7月上旬	中旬	下旬	8月上旬	中旬	下旬	合計
R3年	2,527		428	592		59	3,606
R4年					1,108	1,123	2,231

夏秋ピーマンの生産・価格等動向①

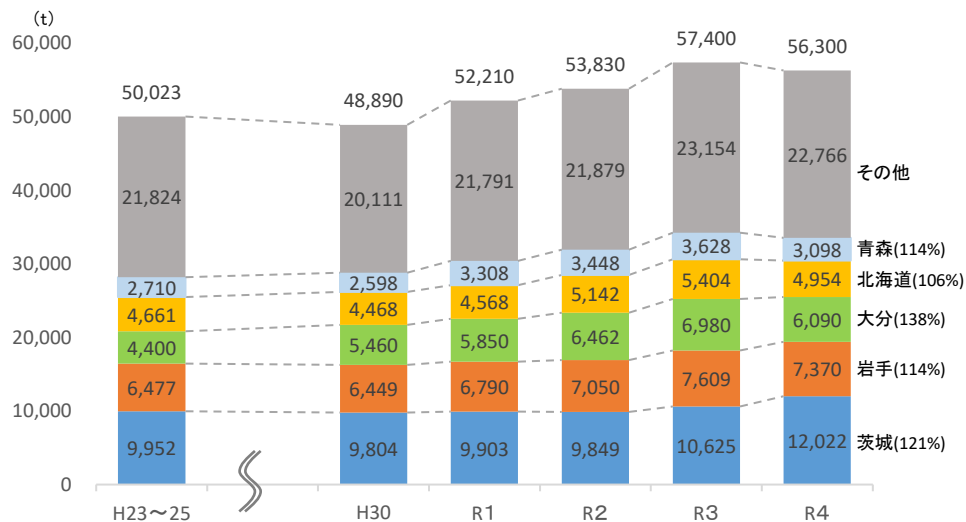
- 10年前と比較し、全体作付面積は微減しているが、全体出荷量は単収の増加に伴い大きく増加。
- 輸入はほぼジャンボピーマン(パプリカ)で、主に韓国、オランダから一定数量輸入されている。

1. 作付面積の推移



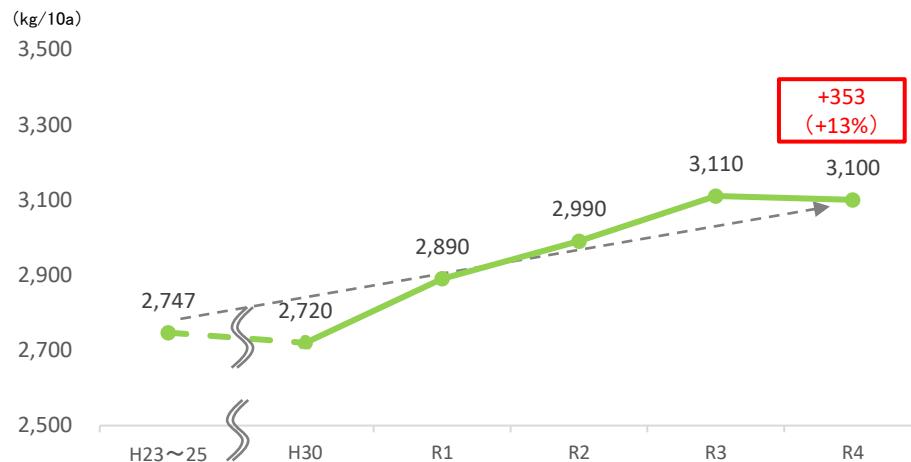
出典：野菜生産出荷統計 注：ししとうを除く

2. 出荷量の推移

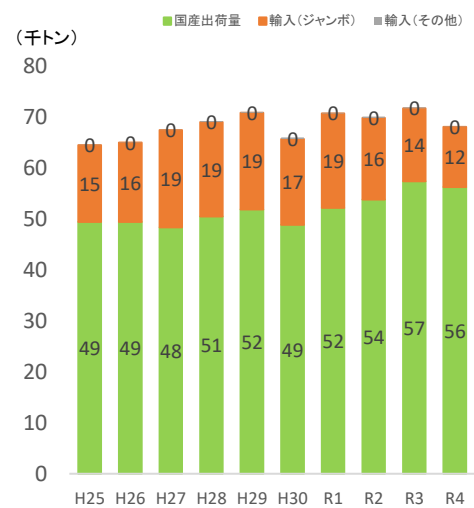


出典：野菜生産出荷統計 注：ししとうを除く

3. 単収の推移

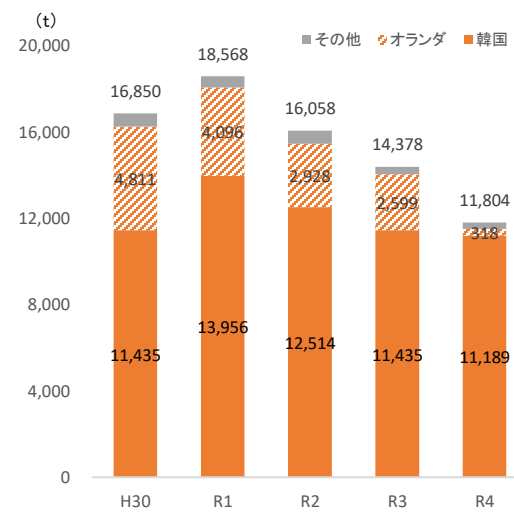


4. 出荷量と輸入量



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

5. 主な輸入先国(ジャンボ)

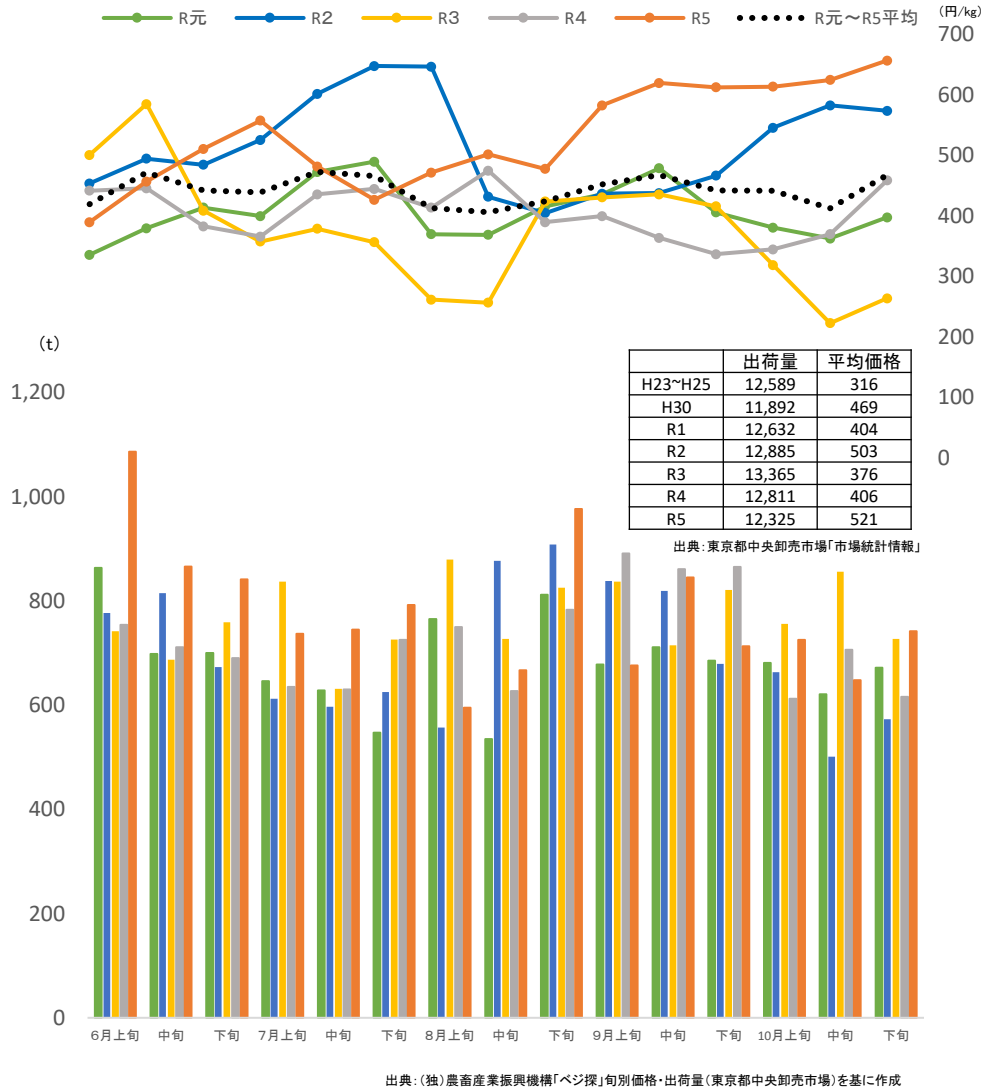


出典：貿易統計

夏秋ピーマンの生産・価格等動向②

- 令和3年は7月及び10月の気温高により出荷量が増加し、安値となったが、令和2年は7月の曇雨天等、令和5年は8月の高温等により出荷量が減少し、高値となった。
- 10年前と比べ、東京中央卸売市場への出荷は岩手県産が大きく増加。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



6. 東京中央卸売市場における旬別出荷量の変遷

